

## 市販の虫さされ・かゆみ止めの薬いろいろ

夏場は、虫に刺されることがよくあります。お子さんとかきこわして、余計に炎症や化膿することがあります。早めに市販のぬり薬などでかゆみを抑えてあげることが大切です。ぬり方ですが、こすると余計にかゆくなるがあるので、上からトントンと軽くたたくようにぬると良いでしょう。



かゆいよ



## ◎ぬり薬の使用感

軟膏はベタベタ感がありますが、皮膚に膜を作って保護する作用があります。クリームはサラッとしていますが、汗などで流れやすいのが難点です。液体は塗ってすぐ乾くので便利ですが、その分効いている時間が短いのが難点です。その他ゲル、パッチ等色々ありますが、まずは患部の使用感で選んでいただくのが良いでしょう。

## ◎かゆみを止める成分にも、色々あります

蚊などのちょっとしたかゆみなら、抗ヒスタミン成分（ジフェンヒドラミン、クロルフェニラミン等）・局所麻酔成分（ジブカイン、リドカイン等）、その他クロタミトン、グリチルリチン等が、早く良く効くように工夫してブレンドされています。

もの凄くかゆい時は、ステロイド成分（デキサメタゾン、プレドニゾロン、ヒドロコルチゾン等）の入っている薬が良く効きます。ただ、「ステロイド」は、副作用が怖い!と思われる方もいるのではないのでしょうか?市販のぬり薬については、特別に怖がる必要はありません。特にアンデラッグという成分（プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル等）は、塗った部位にはちゃんと効果があるけれども、体に吸収されると代謝されて効果を失うしくみを持っており、副作用を少なくする工夫がされています。

ステロイドって  
副作用は大丈夫?

使用前に説明書をよく読みましょう!



商品を選びに迷う時は、ぜひ店頭で薬剤師や登録販売者にアドバイスをもらってください。ただ、どんな薬にも副作用はつきものなので、薬に付いている説明文を使用前によく読んでください。注意すべきことがわかりやすく書いてあります。例えば、市販のぬり薬では「長期連用しないでください」と書いてあります。この場合の長期とは2~4週間ぐらいをいいます。市販のぬり薬を使っても症状が良くならない、または悪化している場合は、皮膚科の受診をお勧めします。その際、使用していた薬の説明文を持って行きましょう。

薬のギモン・質問は、お近くの薬局 もしくは、ぎふ薬事情報センターまで ☎058-247-5122

協力/ 岐阜県薬剤師会 〒500-8146 岐阜市九重町4-5 <http://www.gifuyaku.or.jp> 岐阜県薬剤師会 検索